

ブランド米生産支援システム「青天ナビ」の開発

要約

「青天の霹靂」の高品質化と収量安定のため、水田1枚ごとに施肥管理を自動でアドバイスするシステムを開発しました。

研究成果の概要

1 背景・目的

高品質米を安定して生産するためには、水田の特性に応じた適切な栽培管理が必要です。そこで、衛星データや出荷実績などの各種データを分析し、「青天の霹靂」の栽培に適した水田の選択や、水田1枚ごとの施肥管理を自動でアドバイスするシステムの開発に取り組みました。

2 青天ナビの特徴

(1) マップの表示画面 (図1)

栽培管理に役立つデータを、携帯端末で容易に閲覧できます。

- ①収穫適期、②タンパク(食味)、③収量、④土壌の肥沃度(腐植含量)など

(2) 施肥管理のアドバイス画面 (図2)

- ・衛星データから判定した前年のタンパク・収量の状況から、その水田に対応した**施肥管理や栽培管理のアドバイス**を表示します。
- ・土壌の肥沃度から、**美味しい米を生産しやすい水田をアドバイス**表示。

(3) 出荷実績の集計画面 (図省略)

指導機関専用の画面。出荷米の検査(タンパク・検査等級)、収量などのデータを集計し、指導が必要な生産者を容易に絞り込むことができます。



図1 マップの表示画面(収穫適期マップ)

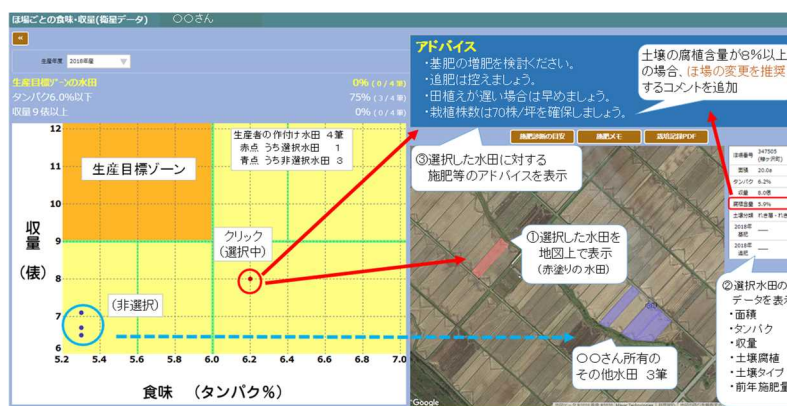


図2 施肥管理のアドバイス画面

3 活用等

- ・平成31年2月(令和元年産米の生産)から、「青天の霹靂」の生産指導で「青天ナビ」が活用されています。
- ・平成30産米でタンパクが高かった(6.1%以上)生産者30名に指導した結果、うち22名(約7割)で、令和元年産米のタンパクが6.0%以下(生産目標)に改善しました。

関連情報

平成30年まで利用していたWebアプリは、「青天ナビ」に機能を統合しました